

2019年6月9日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「告白する教会」

聖書：マタイによる福音書16:13～20

ペンテコステは教会誕生を意味するが、今朝の「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」というのは、“頑丈な岩の上に、あなたがたの立派な教会を建てなさい”という目に見える意味での教会ではない。イエスが「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問うた時、シモンが「あなたはメシア、生ける神の子です」と告白した。その直後に、イエスは「わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」と言われたのである。それは教会とは、そのメシア告白の上に建つのだということである。

「ペトロ」とはあだ名で「岩」ということ。その「岩」には、2つの意味がある。旧約で「岩＝ツル」の場合、「揺るがぬ大岩」を意味し、「岩なる神」とか「救いの岩」などと表現する。詩編の62編に「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある。神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは決して動揺しない。」そのような“動かない”という意味においての岩。もう一つは「セラ」、同じ岩でも「砕くべき岩」とか「頑固な岩」という意味。エレミヤ書5章3節に「彼らを打たれても、彼らは痛みを覚えぬ／彼らを打ちめされても／彼らは懲らしめを受け入れぬ／その顔を岩よりも固くして／立ち帰ることを拒みました。」「頑固な岩」「砕くべき岩」としての意味。

私たちの教会は、イエスを「メシア」として告白する「揺らがない岩」としての信仰ゆえに、教会が教会とされることを覚えたい。教会がキリストを語らなければ、それは教会では無いということである。

そして、私たちは「絶えず打ち砕かれなければならない岩」であること。教会は時に、自分たちだけにのみ救いがあるとおごり高ぶるものであったりする。そういう弱さがあり、「打ち砕かれるべき岩」「頑固な岩」であることを私たちは覚えなければならないであろう。

「告白する教会」とは、この世の現実の社会情勢の中で、絶えず平和の君なるイエス・キリストを告白することであり、そこにこそ、イエスは教会を建てるという。そして「告白する教会」とは、「揺るがぬ大岩」の上に立っているかのようにおごり高ぶる教会ではなく、「絶えず打ち砕かれるべき岩」であり、その岩にこそイエスは教会を建てると言っておられると謙虚に受け取りたい。(神谷)